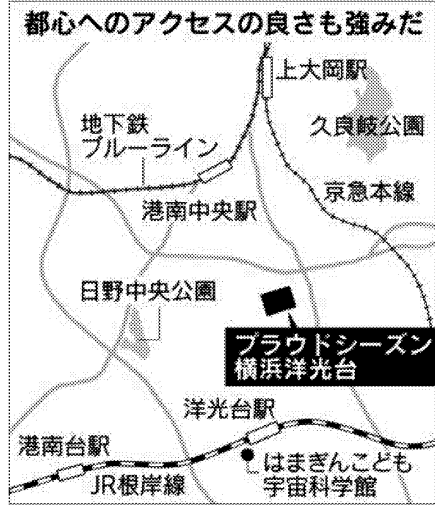


横浜・港南区の分譲住宅街

共有施設で「つながり」を

野村不動産は横浜市港南区で開発・販売中の大規模な戸建て分譲住宅街で、共有施設を設け住民同士の交流や防災の拠点にする取り組みを始めた。震災の経験などから地域のつながりの重要性が再認識されているため、街づくりから地域住民の交流を後押しする。マンションと同様の施設を設ける例はあるが、戸建て分譲住宅街では全国でも珍しい。

野村不動産



地域交流・防災の拠点に

開発・販売中の戸建て分譲住宅街「プラウドシーズン横浜洋光台」に入居者向け共有施設「つなぐ HOUSE」を設けた。子どもが遊べるキッズルームや、大人がくつろげるカフェテリア、スポーツの試合のパブリックビューイングも可能な大画面シアターなどを備える。



カフェテリアやキッズルームを備える

雑誌や絵本を200冊程度そろえ、定期的に入れ替える。窓からは隣接する公園が見え、子どもが遊ぶ様子を見守れる。不定期で住民発案のイベントなども開催する。

（11月半ば以降）。月土は午前11時から午後5時まで、運営管理や入居者からの利用相談などを取り仕切る管理人が常駐する。

「プラウドシーズン横浜洋光台」は全203戸の予定で、横浜市内では約10年ぶりの大規模住宅街になる。JR京浜東北線・根岸線の洋光台駅や京急本線の上大岡駅などからバスと徒歩で15〜20分ほどの場所に位置する。敷地面積は2万8119平方メートル、総事業費は約80億円。2015年から整備を始め、既に第1期の53戸は完成・完売している。11月下旬に第2期の販売が始まり、18年末に全戸完成の予定だ。間取りは4LDKが中心で、販売価格は500万円前後。横浜や都内への通勤者がいる家族などがターゲットという。景観や防犯を重視した「街並み照明計画」の取り組みは17年度のグッドデザイン賞を受賞している。

野村不動産の担当者は「街づくりから地域住民同士のコミュニティ形成や、災害時の安心・安全を後押ししたい」と狙いを説明する。今後、住民の声を聞きながら改良を重ねていく方針だ。

野村不動産の担当者は「街づくりから地域住民同士のコミュニティ形成や、災害時の安心・安全を後押ししたい」と狙いを説明する。今後、住民の声を聞きながら改良を重ねていく方針だ。

野村不動産の担当者は「街づくりから地域住民同士のコミュニティ形成や、災害時の安心・安全を後押ししたい」と狙いを説明する。今後、住民の声を聞きながら改良を重ねていく方針だ。